

平成 20 年 8 月 12 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ
代 表 取 締 役 三 木 茂
(コード番号：3807 大証ヘラクレス)
問い合わせ先：
取締役管理本部長 上中 淳行
電 話 番 号 03 (5212) 8790 (代表)

特別損失の発生及び平成 20 年 12 月期中間・通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 12 月期中間期において特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 2 月 14 日の決算短信にて公表いたしました平成 20 年 12 月期(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)の中間及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上及びその内容

(1) 関係会社株式評価損

当中間連結会計期間末時点において、持分法適用関連会社の株式会社エヌ・エヌ・エー株式及び連結子会社の株式会社フィナンシャルプラス株式の資産性につき、将来の業績を厳格に見積り、その回収可能性を保守的に検討した結果、市況低迷により株式取得時に想定していた収益に至らず、その結果、当初回収計画に遅れが生じているものと判断し、次のように特別損失を計上いたします。

連結：持分法による投資損失 177 百万円、のれん減損損失 51 百万円
(なお、個別においては 240 百万円の関係会社株式評価損を計上いたします。)

(2) 投資有価証券評価損

当中間連結会計期間末において、当社の保有する投資有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復見込みがあると認められない株式を減損処理した結果、連結及び個別ともに 17 百万円の投資有価証券評価損を計上いたします。

(3) 保有資産の減損

国内株式市場の市況悪化に伴う投資意欲の減退等により、特に個人向けサービス事業の低迷が続いていることから、当社及び株式会社フィナンシャルプラスが保有するソフトウェア、器具及び備品につき、将来の収益性を慎重に見積もった結果、保守的な観点から減損処理を行い、連結において 46 百万円、個別において 38 百万円の減損損失を計上いたします。

特別損失内訳

(単位：百万円)

	連 結	個 別
持分法による投資損失	177	-
のれん減損損失	51	-
関係会社株式評価損	-	240
投資有価証券評価損	17	17
固定資産減損損失	46	38
平成 20 年 12 月期中間 特別損失計上額合計	292	296

2. 中間業績予想の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日)

連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	740	92	117	45	1,372 円 77 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	651	120	150	368	11,148 円 42 銭
増 減 額 (B - A)	88	27	33	322	9,775 円 65 銭
増 減 率 (%)	12.0	-	-	-	-
<ご参考> 前期実績 (平成 19 年 12 月期中間)	510	85	84	42	1,292 円 68 銭

個別業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	539	14	15	11	347 円 17 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	479	12	13	305	9,244 円 32 銭
増 減 額 (B - A)	60	1	1	293	8,897 円 15 銭
増 減 率 (%)	11.2	-	-	-	-
<ご参考> 前期実績 (平成 19 年 12 月期中間)	480	25	26	12	395 円 00 銭

3. 通期業績予想の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,690	51	87	0	18 円 90 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	1,310	185	236	432	13,089 円 53 銭
増 減 額 (B - A)	380	133	149	432	13,108 円 43 銭
増 減 率 (%)	22.5	-	-	-	-
<ご参考> 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	1,083	166	196	76	2,325 円 55 銭

個別業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,230	96	94	49	1,496円05銭
今回修正予想(B)	1,004	61	63	337	10,229円59銭
増減額(B-A)	225	157	158	387	11,725円64銭
増減率(%)	18.4	-	-	-	-
<ご参考>前期実績 (平成19年12月期)	968	23	25	12	366円96銭

4. 中間業績予想修正の理由

(1) 連結

売上高につきましては、当社における主たる変動要因は、主力サービスであるリアルタイム配信サービスは計画比を上回って堅調に推移しているものの、アウトソーシングサービスにおいて、販売見込先としていた銀行・証券会社各社が今般の金融市場の混乱による業績悪化から情報サービスへのコストを抑制したことにより計画を下回ったこと、また個人投資家向けサービスであるクラブフィスコが、新興市場をはじめとする長引く国内株式市場の低迷から個人の株式投資への回避姿勢が鮮明となり、投資情報の販売が低迷したことによります。

子会社において主たる変動要因となったのは、シグマベースキャピタル株式会社において、昨今の受注状況が堅調に推移していることから一定の売上拡大を見込んでいたものの、当初計画までは及ばないことが主因であります。

この結果、連結売上高は前回予想を88百万円下回る651百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上が当初計画に比して伸び悩んでいることから営業費用の削減を図りましたが、売上低迷による利益減少から、営業損失120百万円、経常損失150百万円となる見通しです。

当期純利益につきましては、上記に記載いたしました特別損失の計上により、368百万円の当期純損失となる見通しです。

(2) 個別

売上高につきましては、上記「(1)連結」で記載いたしましたとおり、アウトソーシングサービス及びクラブフィスコ事業の低迷が主因であります。また、当中間会計期間からサービス開始を見込んでいた「RASHINBAN」「フィスコモバイル」「銘柄カルテ」の新規サービスのリリース遅延により、売上計上が第3四半期会計年度以降に繰り延べられたことによります。

この結果、当社の売上高は前回予想を60百万円下回る479百万円となる見通しであります。

なお、営業利益、経常利益につきましては、概ね計画通りに推移しております。

当期純利益につきましては、上記記載の特別損失の計上により、305百万円の当期純損失となる見通しです。

5. 通期業績予想修正の理由

(1) 連結

通期売上高につきましては、市況の低迷が下期においても継続する懸念があることを考慮すると、上記中間業績予想に記載いたしました当社のアウトソーシングサービス及び個人投資家向けサービスにおける売上の急拡大は難しい状況にあること、またシグマベイスキャピタル株式会社における売上拡大が当初計画に比して遅れが生じていること、連結子会社であった TAKMA キャピタル株式会社が当中間連結会計期間より持分法適用関連会社となったため、第3四半期連結会計期間から期末までの損益を連結決算に取り込まなくなることから、通期連結売上高は前回予想を380百万円下回る1,310百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、上記売上減少に伴う利益減少を考慮した結果、営業損失185百万円、経常損失236百万円となる見通しです。

当期純利益につきましては、当中間連結会計期間において計上される特別損失の発生により、432百万円の当期純損失となる見通しです。

(2) 個別

通期売上高につきましては、前述の新規サービスによる売上増加が見込まれるものの、上記中間業績予想を勘案した結果、前回発表の業績予想までの到達は難しいものと判断し、前回予想を225百万円下回る1,004百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上が当初計画を下回ることから経費節減に最大限努めてまいりますが、売上減少に伴う利益減少の影響から、営業損失61百万円、経常損失63百万円となる見通しです。

当期純利益につきましては、当中間会計期間において計上される特別損失の発生により、337百万円の当期純損失となる見通しです。

以上

(注)上記業績予想は、発表日現在における入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、多分に不確実な要因を含んでおり、実際の業績は今後の様々な要因によって業績予想と異なる結果になる可能性があることを予めご承知おきください。